



すぎなか こういちろう

杉中 浩一郎 氏

生年月日 大正 11 年 11 月 26 日生

住 所 田辺市あけぼの

大正 11 年 (1922 年) 11 月 26 日、西牟婁郡近野村 (現田辺市中辺路町近露) において、杉中俊英、とみゑ夫妻の長男として生まれる。

昭和 18 年 (1943 年) 12 月、慶応義塾大学経済学部在学中に召集され、昭和 21 年 (1946 年) 8 月復員。地方史や民俗学の分野に造詣が深く、昭和 25 年 (1950 年) 1 月、近野中学校教諭に採用された後は西牟婁地方の各中学校で社会科を担当し、学校教育の向上に貢献をした。また、在職中から、その地域の民俗や歴史の調査研究に努め、当地方の文化の向上に尽くした功績は大きい。

昭和 55 年 (1980 年) 3 月に上富田中学校を退職したが、氏の文化や歴史に対する旺盛な研究心、豊富な知識、情熱は万人の認めるところであり、懇請されて昭和 59 年 (1984 年) 4 月、田辺市立図書館長に就任する。就任後は郷土資料の整備に努め、昭和 62 年 (1987 年) 5 月には『郷土田辺ー風土と文化ー』を編集し、図書館の読書会のテキストとして使用するなど、図書館活動の充実に大きく貢献した。

また、田辺市が市制施行 45 周年記念事業の一つとして、昭和 62 年 (1987 年) 度から取り組んでいる田辺市史編さん事業 (全 10 巻) は、平成 2 年 (1990 年) 5 月に第 5 巻「史料編Ⅱ」を、平成 3 年 (1991 年) 3 月には第 10 巻「史料編Ⅶ」を発行しているが、田辺市史編さん委員として編集に当たり、特に第 10 巻で担当した民俗編では、口熊野の古くからの特性にふれながら、広く資料を収集整理してまとめるなど、伝統的な常民の生活文化を明らかにしたものとして、高い評価を得ている。

昭和 39 年 (1964 年) から田辺市文化財審議会委員として文化財の調査、研究、記録などに精力的に取り組み、平成 4 年 (1992 年) 4 月から同委員長に就任しているほか、紀南文化財研究会の理事長及び理事として、多年、研究会の運営や「くちくまの」の編集等に努め、平成 5 年 (1993 年) 4 月から同研究会会長として、紀南地方における文化財の研究や保存活動の中心的存在として活躍している。

また、熊野路編さん委員として、くまの文庫「総集編」の完成まで企画執筆に当たったが、熊野中辺路地方の民俗や伝説、自然など時代とともに失われてゆく大切な財産を分かり易くまとめあげており、故郷を知る文化の図書として貴重なものとなっている。

こうした地道な活動が高く評価され、平成 4 年 (1992 年) 5 月、皇太子殿下が熊野古道にお越しになった際、氏の案内を受けられたことは記憶に新しい。

著書には『紀南雑考』があり、論文・論考に民俗学や歴史学に関するものが多い。

第 24 回 (平成 5 年)

(略 歴)

昭和 18 年 (1943 年) 12 月	慶応義塾大学経済学部在学中入隊
昭和 21 年 (1946 年) 8 月	マレーシアより復員
昭和 25 年 (1950 年) 1 月	近野村立近野中学校教諭採用
昭和 55 年 (1980 年) 3 月	上富田町立上富田中学校教諭退職
昭和 59 年 (1984 年) 4 月	田辺市立図書館長に就任
昭和 63 年 (1988 年) 3 月	田辺市立図書館長退職
昭和 24 年 (1949 年) 4 月	日本民俗学会会員
昭和 29 年 (1954 年) 4 月	和歌山県文化財審議会委員
昭和 38 年 (1963 年) 12 月	紀南文化財研究会理事
昭和 39 年 (1964 年) 4 月	田辺市文化財審議会委員
昭和 42 年 (1967 年) 7 月	和歌山県歴史教育者協議会副会長
昭和 46 年 (1971 年) 6 月	熊野路編さん委員
昭和 56 年 (1981 年) 5 月	社団法人 和歌山県文化財研究会理事
昭和 62 年 (1987 年) 4 月	田辺市史編さん委員
昭和 62 年 (1987 年) 6 月	南方熊楠邸保存顕彰会理事
昭和 63 年 (1988 年) 12 月	明治大水害誌編集委員会委員長
平成 3 年 (1991 年) 4 月	紀南文化財研究会副会長
平成 3 年 (1991 年) 5 月	社団法人 和歌山県文化財研究会常務理事
平成 4 年 (1992 年) 4 月	田辺市文化財審議会委員長
平成 4 年 (1992 年) 7 月	南方熊楠邸保存顕彰会常任理事
平成 5 年 (1993 年) 4 月	紀南文化財研究会会長

(著 書)

『紀南雑考』